

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 第5回メディア委員会議事録

1. 開催日時

平成28年7月4日（木）14時00分～15時30分

2. 開催場所

虎ノ門オフィス9階 TOKYO

3. 議事次第

1. アクション&レガシープランについて
2. TOKYO2020大会ボランティアプログラムの方向性
3. 組織委員会広報活動について
4. メディア委員会の今後の運営について

4. 配布資料（※は机上配布のみ）

資料1：メディア委員名簿

資料2-1：アクション&レガシープラン（復興・オールジャパン・世界への発信）について

※資料2-2：アクション&レガシープラン 本文（案）

※資料2-3：アクション&レガシープラン 一覧表

※資料2-4：アクション&レガシープラン 下半期一覧（フォーマット）

資料2-5：東京2020参画プログラム（仮称）について

※資料3：TOKYO2020大会ボランティアプログラムの方向性

資料4-1：広報資料 エンブレムコンセプトムービーについて

資料4-2：広報資料 2020たより

資料4-3：広報資料 公式ウェブサイト「Rio to Tokyo」

資料4-4：広報資料 PR用スライド

資料5：メディア委員会の今後の運営について

5. 議事要旨

議題1. アクション&レガシープランについて

○資料に沿って事務局より説明

【意見交換】

○委員

非常にすばらしい御計画、そしてロンドンのときにこれだけ人々を巻き込んで、それが実際成功に繋がったという経緯ございますので、東京もこれが一つのオリンピックそのものの、そしてその後のレガシーの成否を左右するものだと感じております。もし可能でしたら御勘案いただきたい件を申し上げます。

一つは、その昨今いろんな国際的な、そして国内の準備もしくはその選手でも、スポーツ、オリンピックめぐる不祥事が多々ございます。こういった不祥事がありまして、これが逆風になってアクションが盛り下がるというようでは本当に非常にもったいない話になります。例えば、私どもは音楽というものを聞きますけれども、その作曲家とかが不祥事を起こしても音楽そのものを聞かなくなるということはありません。スポーツというものについても、スポーツをすることによってもたらされ得る価値というものはスポーツ界、オリンピックの不祥事が起きても変わらないのだと。オリンピックそのものにしても理念として目指す方向性というのはその良さ、価値というものはどんなに不祥事が起きても変わらないのだと、それを踏まえて伝えていくことが大事なのではと感じています。

すばらしいいろんなプランがあって、皆さんが参画しやすいように、特にスポーツに限らなくても当然いいですという伝え方をされていくのだろうと思いますし、それで結構なのですが、やはりその中にはオリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典です。スポーツをするということによってスポーツの楽しさ、すばらしさ、もしくはそれが自分にもたらす影響、健康いろんな形でそのよさ、価値を感じ取ってもらいやすくなると思います。そのスポーツをするということ。それをある程度前提にして、オリンピック・パラリンピックが来たときの一番の盛り上がり、スポーツの盛り上がりにつなげるという部分での工夫をこちらからどういったアクション&レガシープランやりましょうと、募集しますという中にもぜひ入れていただければと思っています。

それからもう一点は、最初にビジョンをつくられたときにもたしかこのようなことを申し上げたのですが、ロンドンの組織をおやりになったセバスチャン・コー、彼から気をつけなければいけないことがあると。オリンピックの組織、そしてある意味で皆さん、市民

の方々への働きかけというのは一番鍵となる。そのときに先走ってはいけないのだと。みんなの感覚の半歩先を行くぐらい、もしくはそのフロントランナーとして一緒に走るぐらいの感覚で皆さんの参画、そして支援、同意、合意といったものをもらっていかなきゃいけないのだと言っていたのが記憶に残っています。こちらの今回はお読みになりませんでしたけども、レガシープランの中の本文いろいろ読ませていただきますと、すばらしいビジョンがあって、未来を変えるというお話がある。ですが、やっぱりそのアクション&レガシープランを人々に伝えるとき、そしてその参画を得ようと試みられるときは、もっとわかりやすい表現で、昨日のリオ五輪の壮行会、あのときに非常におもしろいプロジェクトがあって、これは使えるなと思ったのですが、松岡修造さんが小学校に行って、そこで授業をして、その理解を深めた上で子どもたちに「手」の刻印をしてもらって自分たちでメッセージを書いてもらう、その小学校、多分100ぐらいありますか、あの学校のそれぞれのポスターが集まって巨大な2枚の「手」になった。そういうプロジェクトでした。このときにおやっと思ったのは、彼が小学校に行って授業を始めたときの子どもたちの反応。テレビで見たことはあるけど、オリンピックって自分にはあまり関係ないよね。ちょっと選手は憧れだけど、でもやっぱり知らないよね。自分はスポーツあまり好きじゃないし、そういう反応がやっぱりすごく多かったです。そういう子どもたち、そういう地域の人々に対してものを言っている、その人たちに入ってきてもらうにはどうしたらいいか。そういう視点でやっぱり声をかけないといけないのではないかと思います。そのスポーツに秘めた力があるというのをどう伝えるのか。あなたがちょっと変わるきっかけになり得る、ちょっと豊かに幸せに思えるようなきっかけにもなる、そのときオリンピックの自国開催、一生に一度の体験なので、かけがえのない機会にやっぱり一緒に楽しさ共有しませんかとか、みんなが乗ってこれるような形で伝えてあげることが大事だと思います。

最後に、ロンドンのときのPRビデオ、これは歌でございましたけれども、プラウドという黒人の女性歌手が歌っている、あのビデオはいまだにユーチューブで見られると思います。これみんなにスポーツをどう始めてもらうのというのを非常におもしろおかしく歌に乗せて画像とともに出しています。こういった形で参画を呼びかけるというのはおもしろいかなと感じています。

○事務局

私どもの事務局としましても、アクション&レガシープランそのものが、関係者向けの

つくりになっておりますので、最終的にはでき上がった暁には、一般の方々にわかりやすく御説明できるような資料をつくっていかうと思っております。また、ぜひアドバイスをいただければと思います。

○委員

テレビ朝日の宮嶋と言います。ちょっと教えていただきたいのですけれども、4ページです。公式認証プログラムと応援プログラムが両方あるのはわかりました。いわゆるスポンサー企業であるとか、JOC、JPCが公式プログラム、非営利団体などが応援プログラムであると。応援プログラムには、ノンコマーシャルマークというのがつくということですが、やっぱりイベントをやるということはお金が絶対ついて回るわけで、どんなNPOであったとしても、多分スポンサーを募ってどっかからお金をもらいたいという気持ちがあると思います。その辺りがどのようなことになるのか。ましてやロンドンでは18万件行われて日本では文化プログラムは20万件、その4年間にやるぞというようなことも伺っていますので、どのようにお考えなのかちょっと教えていただければと思っております。

○事務局

今、御説明しましたように、この秋からこのアクション&レガシープランの各種プログラムを大々的に展開していきたいと思っております。あまり質とか規模とか、そういうところでハードルを設けるのではなくて、できるだけ多くの方々に参画していただくというのがこの趣旨でございます。

ただ、二つ懸念がございます。一つは、いろいろな取組をほとんどの方が善意でやっていただけと思うのですが、詐欺のようなことがあると、これは2020年大会そのものに非常にマイナスの影響を及ぼしますので、それをどう排除していくかと、どうチェックするかというのが一つ。

もう一つが、今おっしゃられたスポンサーシップとの関係でございます。やはりIOC、IPCとの関係から申しますと、スポンサーではない企業がイベントを主催するものに対してなかなかこの組織委員会が推奨する、リコメンドするというのはなかなか難しく、そのためにも、そういったところをクリアするために、非営利団体の主催する取り組みについては、この応援プログラムをつくろうと。おっしゃったように、その応援プログラム主催自体は非営利団体としても、非スポンサーの方が後援とか名前が出てくると、難しいところでご

ざいます。これからわかりやすいルールをつくっていこうと思っておりますけれども、我々もあまり四角四面にならないように、かといってスポンサーの方々のそのスポンサーシップも大事にしなきゃいけない。これから提案いただく非営利の団体の方々と御相談しながら、うまく参画の輪を広げるような手だてを考えていきたいというふうに思っております。

○委員

今、地方へ行きますと、どのようにしたら参画できるのかという話をよく伺います。地方におきましては、やはりインバウンド効果を狙うということがありますけれども、ロンドンの例からも考えますと、やはりなかなか2020年に人は動かない。人は地方には行かないというふうに思います。むしろその2020年以降に人は動いて、ロンドン自体のその経済波及効果というのは、実は、今、一番ある意味ではいい形になってきているのではないかと、そのように思います。ということから類推すれば、これはなぜ行かないかという、例えばオリンピックですと、宿舎とかそういったものがオリンピック価格になってしまう。これはリオでも今そういう状況を迎えていますけれども、つまり高いから行かない、単純に言えば。それからどうしても行きたい人はオリンピックだけ見て帰るというふうな形になろうかと思う。その中でやはり20年以降をどう目指していくのかというふうなことで、今からやはりその種のことをもう少し考えていかなければいけないのではないかと。ホストタウンのこともありますけれども、早目の仕掛けということが大事になってくるような気がします。そして地方からの情報発信については、やはり地方紙とか、あるいはその地方の拠点大学とか、そういったものが非常に重要な役割を占めるような形になると思います。スポンサーの問題とかも関わってくるということになりますし、一つポイントになってくるかなという気がしております。

○事務局

おっしゃっていただいたように、2020年以降、アクション&レガシーということで16年から20年に向けてどれだけ盛り上げていくかというのは半分の大きな目的でございますけれども、残り半分は20年以降に何を残せるかということでございますので、いろんなイベントにこれからマークをつけていく際も、2020年以降も続けてくださいというようなことをお願いしていこうと思っております。あと、このまさにメディア委員会ということで2020年の大会及びその地方でいろんなイベントをやっていることを活字であるとか、映像で世界

の人にぜひ知らしめてオリンピック・パラリンピックが終わった後に、ぜひ日本に来ていただくという取り組みをなるべくしたいというふうに思っておりますので御協力をお願いいたします。

2. TOKYO2020大会ボランティアプログラムの方向性

○資料に沿って事務局より説明

【意見交換】

○委員長

大会後のレガシーとして、ボランティア文化を持続させたいということが記載されていますが、これはこれから考えていくのでしょうか。私は、日本におけるボランティア文化というのは、オリンピックのレガシーとして大変大事だと思うし、重要だと思いますので、ぜひ御検討をお願いしたいと思います。

○事務局

今現在、ロンドン大会ですとか、そういうものの資料も参考にしておりますけれども、具体的にはこれから検討して参ります。

○委員

日本はなかなかボランティアといっても、やりたいけれども会社を休むのはどうかという方が多いと思います。今回は、夏の暑いときのボランティアですから、今までのオリンピックですと、ボランティアなさる方は結構高齢というか、中高年の方が多い。しかしながら、この暑い炎天下の中で御年配の方をお願いするのも難しいところもあるかと思ひ、元気な方が会社を休んでということになった場合に、何か証明書のようなものを発行することなど、そういうことはお考えでいらっしゃいますでしょうか。その辺り、ちょっと、もし御計画があるようでしたらと思ひまして聞きました。

○事務局

まだ具体的にその証明書ですとか、そこまで考えておりませんが、本当に炎天下のボランティアということもありますので、大学生ですとか、後はリタイアまでは早過ぎますけれども、いわゆる60歳、会社を第二の人生を送っている方々ですとか、そういう方々

に期待をしているところは事実でございます。ただ、委員から御指摘ありましたように、現役の方々により参加しやすいような仕組みづくりにつきましても、ぜひ検討をしていきたいというふうに考えております。

○委員

二つほど、今、炎天下の大会だということがございましたけども、もちろんこのボランティアの方々の健康面でのサポートというのはもうやっぱり万全にされるわけですよ。もちろんアスリートやら観客やらの健康面も大変ですけども、何しろ人数が多いボランティアの方々の健康面のサポートが、本当にそれがしっかりしているという確信が持てないとなかなか参加しづらいぐらいの暑さになると思いますので、そのところをよろしくお願ひしたい。もう一つは、ロンドンなんかと比べまして日本が特殊だと思うのは、やはり語学の問題だと思うのですが、私が参りましたソルトレークの冬のオリンピックのときですと、あそこモルモン教徒の方々の聖地なので、世界中に散らばった宣教師の方々をみんな全部呼び返して、つまりあらゆる言語に対応できるようにしますみたいなのが売りの一つだった。2020年までには英語ぐらいだったら何とかという方はすごく増えると思いますが、そのほかの言語に対して、特に参加者が増えるだろうと思われるスペイン語系とか、中国、韓国の方はたくさん日本にいらっしゃるからいいかなと思いますが、そういうところの特別に例えば語学学校で募集するとか、日本中の外国語大学系のところで、特に少ない言語のところの方々はぜひそちらで何名かお願ひしたいみたいなのを募集されるとか、そういうことはお考えですか。

○事務局

ありがとうございます。まずボランティアの方々の健康管理については、大会運営においてはスタッフの健康が重要ですので、これはきちんとしていきたいというふうに考えております。

あと語学のほうですけれども、この4年間で我々もアナウンスをしながら語学の勉強などについて働きかけもしていきたいと思っております。また、大学連携の中で、語学系の外国語系の大学のコンソーシアムといいますか、集まりなんかもできておまして、そういうところも有効な語学のボランティアの供給源だというふうに考えておりますので、そういうところとも連携をしながら取り組んでいきたいというふうに考えております。

○事務局

大学連携の中で、外国語大学7大学が連携されて、英語のみならずもう少し少数言語のほうにも、今、言語ボランティアの育成が既に始めていただいておりますし、あと留学生団体の方々も、できるだけ自国の選手団を文化も理解した留学生がお手伝いしたいと、そういう申し出がありますので、いずれそういった留学生団体とも具体的な流れをつくっていただければと思います。

それから、あと健康のサポートについても、各競技会場に選手用の診療所に加えてボランティアとか観客の方々の健康管理もできる診療体制は整えていく予定でございますので、御指摘の点は十分対応したいと思います。

○委員

2点伺わせていただければと思います。1点は、ボランティアを過去になされた方のお話を聞くと、してあげるではない、自分の糧になった、一生を変えるような体験にもなったみたいなことをおっしゃる方が多々いらっしゃいました。機会をみんなに開くというコンセプトのもとに、もちろん最終的には面接をされて選抜されるのでしょうけれども、いろんな方に機会を与えたいという部分を少し出されてはどうか。例えば、会社、企業にお勤めの方、都のレベルでも国のレベルでもタイアップされて、長期休暇をその期間にボランティア名目でとる方、そしてそれをさせた企業に対するインセンティブの付与、あとは大学でボランティアについて講義をされている先生もおられますが、ボランティアとしての取組を単位の一部のような形として認めるということ、国もしくは地域行政の枠で打ち出すとか、そういったこともお考えになることが良いのではないかという気がいたします。

2点目は、在住の外国国籍、外国人の方、それから当然意欲を恐らくお持ちの高齢者の方、そして障害を持たれている方、こういった方々が実はボランティアの中に入っていると、我々メディアなんかにも強く印象に残る。障害を持たれる方が軸になってチーフやっているよみたいな感じで非常に印象が変わるのです。高齢者の方もそうです。毎朝毎朝朝早くから立ち仕事なんですけども、リレハンメルか何かですみません、真っ白な髪のおじいちゃんおばあちゃんがチェックしてくれている姿だけで、あっ、こっちが文句言っちゃいけないって、こっちの気分が変わったりいたしますので、そういういろんな方を入れる。そしてそのための基準をどこに置くのかという辺りも明示されてはいかかなと感じます。

○事務局

本当に子どもから大人まで広くの方々に御参加をいただきたいというのが一番でございますので、今いただきましたような御意見も本当に参考にしながら、幅広い方々の参画に向けてこれから整備をしていきたいと思っております。また、企業は経済団体も含めまして、いろいろと御相談をしながら進めていく予定でございますので、何かしらの対応ができるようにこれからも考えていきたいと思っております。

また、障害者を初め高齢者、外国籍の方々、本当に繰り返しになりますけれども、幅広くというところは本当にそう思いますので、その方々の参加がいただけるような公募のやり方ですとか、選考の仕方についても検討してまいりたいというふうに考えたいと思っております。

○委員長

いろいろ数々の御意見をいただきましてありがとうございます。証明書を発行してはどうかというアイデアもございましたし、真夏ですから健康管理というのは本当に想像以上に真剣に考えられたほうがいいと思っております。それから、ポイントであります外国語ですね。これは大学や何かでどんどん広がっているようですが、まだまだ時間があるので、ぜひ広げていただけたらいいのではないかと思います。それから先ほど出ました、ボランティア文化というのはなかなか日本で育っていないところがあるので、まさにこのオリンピックのテーマであるレガシー、このボランティアを持続させる努力というのをぜひ今のうちに考えておいていただければと思います。

議題3. 組織委員会広報活動について

○資料に沿って事務局より説明

【意見交換】

○委員

これはもう考えてらっしゃるかもしれませんが、エンブレムの3D化というか、いわゆるさわられるエンブレムに、これは形としてできる形だと思います。そういったことは結構視覚障害の方とかにユニバーサルデザインの一つとして結構重要な要素になるのではないかと思います。ただ、これはデザイナーの方との契約の問題等とかもあるとは思いま

すけれども、何か、リオデジャネイロも3Dという形をとっていますし、せつかくでこぼこした感じがさわったら非常におもしろい感じになるだろうなと思うので、ぜひ何か考えていただければというふうに思います。

議題4. メディア委員会の今後の運営について

○資料に沿って事務局より説明

【意見交換】

○委員長

ありがとうございました。今、事務局からお話がありましたように、これだけ大人数ですとなかなか活発な議論もできませんので、ワーキンググループをつくって、そこで皆さんの積極的な御意見を頂戴したいというのが事務局の考えでございます。ぜひ実現していただいて、皆様もぜひ参加していただければと思います。まず当面はリオ大会を取り上げたものがないのではないかと、今、私ども考えておりますので、ぜひその点を調整していただきながら、日程等の詳細を改めて事務局から連絡いたしますので、積極的な御意見を頂戴すればと思っております。